スロバキアのフィツォ首相、偽旗作戦（ポーランドで発生か？）で自国がロシアとの戦争に巻き込まれることを許さず

Slovakia’s Fico Won’t Let A False Flag (In Poland?) Drag His Country Into War With Russia

（ https://korybko.substack.com/p/slovakias-fico-wont-let-a-false-flag?utm_campaign=post&utm_medium=web）

NATO 条約第 5 条は、加盟国を支援するために軍事力を行使することまで義務づけているわけではない。ましてや、ポーランドのリベラル派がもくろんでいるように、偽旗作戦（あるいは実際に起きた偶発的な事故）を利用するための規定では決してない。

スロバキアのロベルト・フィツォ首相は先ごろ、たとえ NATO 条約第 5 条に基づいて参戦を求められたとしても、自国がロシアとの戦争に巻き込まれないよう全力を尽くすと国民に語り、大きく報じられた。

フィツォ氏は同じ場で、欧州の NATO 加盟国とロシアがかつてないほど戦争に近づいていると警告した。さらに、ウクライナを訪問したばかりの各国首脳について、「彼らは NATO とロシアの大規模な軍事衝突を引

き起こす口実を探しているだけではないかと、私は深く懸念している」と述べた。

これは特に、ポーランドの政権を担うリベラル派に当てはまる。彼らはロシアとの対立を大幅に激化させようとしているように見える。ただし、そのためには保守派の大統領を巧みに誘導し、同調させる必要がある。

リベラル派のドナルド・トゥスク首相は春以来、ロシアによる攻撃の脅威をあおり続けてきたが、今月に入って、その発言は常軌を逸するほど激しさを増している。一方、ラデク・シコルスキ外相は「ロシアはすでに欧州と戦争状態にある」と挑発的な発言をしている。こうした状況を踏まえると、彼らがゼレンスキー大統領と共謀して偽旗作戦を仕組む可能性もある。

この問題に関連して、ポーランドの保守派の前大統領、アンジェイ・ドゥダ氏は昨年、退任後に 2022 年末のプシェヴォドゥフ事件について語り、ゼレンスキー氏がポーランドをロシアとの戦争に引き込もうとしていたことを、遅ればせながら認めた。この事件では、ウクライナの防空ミサイルが誤ってポーランド領内に着弾し、ポーランド人 2 人が死亡した。

当時、ウクライナは誤ってポーランドを攻撃したにもかかわらず、ロシアのミサイルが着弾したと虚偽の説明を行い、NATO をだまして第三次世界大戦を引き起こそうとした。しかし、ドゥダ氏がその誘いに乗ると考えていた人々もいたなかで、同氏はその策略には乗らなかった。

同様に、2025 年 9 月にロシアの無人機が誤ってポーランド領空に侵入した際にも、ドゥダ氏の後任であるカロル・ナヴロツキ大統領は策略に乗らなかった。無人機の領空侵入は、電子妨害によって飛行経路がそれたことが原因だった可能性が高い。

このとき、トゥスク政権はロシアのミサイルが民家を破壊したと虚偽の説明を行ったが、実際には防空ミサイルが誤って着弾したものだった。

わずか 1 年前、ポーランドの「ディープステート（国家の背後で影響力を行使する権力機構）」がナヴロツキ氏をロシアとの戦争に引き込もうとして失敗したことは、今回も同じような工作が行われる可能性を疑う十分な根拠となる。

ナヴロツキ大統領の報道官は先ごろ、ロシアによる攻撃が差し迫っていると警告する CIA の報告書を受け取ったと主張したトゥスク首相に対し、「世論を騒がせるためにでっち上げた嘘を広めている」と非難した。一方、トランプ米大統領は、ナヴロツキ氏が事態を「掌握している」と明言した。

また、米国は欧州に駐留する米軍の大幅な削減を計画していると報じられている。仮にロシアの行動によって近く NATO 条約第 5 条の実効性が試される事態になると米国が本気で考えているのであれば、こうした兵力削減に踏み切ることはないだろう。

したがって、ナヴロツキ氏もトランプ氏も、偽旗作戦にだまされる可能性は低いと考えられる。

しかし、万が一、両氏がそうした策略に乗り、シコルスキ外相が以前から提案しているウクライナ上空でのロシアのミサイルなどの迎撃、あるいはウクライナにおける飛行禁止区域の設定をナヴロツキ氏が承認すれば、第三次世界大戦を引き起こす危険が現実のものとなる。

フィツォ首相は、たとえそのような事態になったとしても、スロバキアが戦争に巻き込まれることはないと国民に伝えておきたいのだ。

そもそも、NATO 条約第 5 条は、加盟国を支援するために軍事力を行使することまで義務づけているわけではない。ましてや、ポーランドのリベラル派がもくろんでいるように、偽旗作戦や、たとえ本当に起きた偶発的な事故であっても、それを利用するために設けられた規定では決してない。

先週リトアニアで発生した無人機事件は、別稿で説明したように、ウクライナによる偽旗作戦だった可能性が高い。これに加え、トゥスク首相とシコルスキ外相を中心とする欧州の政治エリートたちが、再びロシアの脅威を盛んにあおっていることを考えれば、ポーランドで偽旗作戦が計画されているとみる理由はある。

ナヴロツキ大統領が毅然とした姿勢を貫く限り、第三次世界大戦を引き起こしかねない、ロシアとの対立を大幅に激化させる計画は阻止できるだろう。とりわけ重要なのは、ナヴロツキ氏が普段から意向を尊重しているトランプ氏の姿勢が揺らいだ場合でも、自らの立場を貫けるかどうかだ。すべてはナヴロツキ氏一人の判断にかかっているのかもしれない。